

緩和ケアにおけるがん患者の QOL 評価 ; EORTC QLQ-C15-PAL

開発の経緯

がん患者の緩和ケアでは患者の Quality of Life(QOL)を改善することが、理学療法の目的の一つとなります。がん患者の QOL 評価には全般的または疾患特異的なものが数多くありますが、European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire Core 30(EORTC QLQ-C30)が世界的に使用されています。EORTC QLQ-C30 はヨーロッパで開発されたもので、現在は 81 の言語に翻訳されており、信頼性や妥当性が検証され、3000 以上もの研究報告で用いられています。これは 30 項目で構成されていますが、緩和ケアを受けるがん患者に適用できる短縮版として、EORTC QLQ-C15 Palliative(EORTC QLQ-C15-PAL)が開発されました。

評価の方法

以下の 15 項目で構成される質問紙を用います。1~14 の項目は 1;まったくない、2;少しある、3;多い、4;とても多い、のいずれかを選択します。また、4~14 の項目はこの一週間について回答してもらいます。15 の項目は 1;とても悪い、から 7;とてもよい、の 7 段階から選択します。

1. 屋外の短い距離を歩くことに支障がありますか。	9. 吐き気がありましたか。
2. 一日中ベッドやイスで過ごさなければなりませんか。	10. 便秘がありましたか。
3. 食べること、衣類を着ること、顔や体を洗うこと、トイレに行くことに人の手を借りる必要がありますか。	11. 疲れていましたか。
4. 息切れがありましたか。	12. 痛みがあなたの日々の活動のさまたげになりましたか。
5. 痛みがありましたか。	13. 緊張した気分でしたか。
6. 睡眠に支障がありましたか。	14. 落ち込んだ気分でしたか。
7. 体力が弱くなったと感じましたか。	15. この一週間、あなたの全体的な生活の質はどの程度だったでしょうか。
8. 食欲がないと感じましたか。	

この 15 項目の結果から、global QOL(gQOL)、身体機能、感情、疲労、吐き気・嘔吐、疼痛、呼吸困難、不眠、食欲不振、便秘の 10 のドメインに分かれてスコアリングされます。EORTC QLQ-C30 に準じてスコアリングするためのアルゴリズムがあります。

信頼性、妥当性

EORTC QLQ-C15-PAL のドメインのうち、5 つは EORTC QLQ-C30 と同じ設問から構成されており、EORTC QLQ-C30 と同じ結果が得られます。異なる設問数で構成される 5 つのドメインについて、EORTC QLQ-C15-PAL と QLQ-C30 の級内相関係数は gQOL で 0.94、身体機能で 0.93、感情で 0.94、疲労で 0.94、吐き気・嘔吐で 0.95 と、平行テスト法による高い信頼性が得られています(Miyazaki K, 2012)。

結果の活用方法

アルゴリズムによって算出された各ドメインのスコアは 0~100 で表されます。ドメインのうち、global QOL のスコアが高いほど高い QOL を示し、身体機能、感情はスコアが高いほど良い状態を示し、その他のドメインはスコアが低いほど問題が少ないことを示します。

使用例

新家ら(2012)は、緩和ケアチームの介入効果を EORTC QLQ-C15-PAL を用いて検証しています。介入 1 週間後に疼痛の有意な改善(-7.1 のスコア変化)、ならびに便秘の有意な悪化(14.1 のスコア変化)、4 週間後には疼痛と呼吸困難の有意な改善(それぞれ-13.5、-14.6 のスコア変化)を報告しています。

【参考文献】Groenvold M, et al.: The development of the EORTC QLQ-C15-PAL: A shortened questionnaire for cancer patients in palliative care. Eur J Cancer. 2006; 42: 55-64.